

第3編 長期構想

- 1 アジアとともに発展するものづくり拠点構想
- 2 越中とやま・食の王国構想
- 3 環日本海ゲートウェイ構想
- 4 日本の未来を拓く人づくり構想
- 5 世界に発信する文化・学術交流拠点構想
- 6 立山・黒部「美しきアルプスの国」構想
- 7 「神秘の宝庫 富山湾」構想
- 8 「健康長寿100歳」構想
- 9 水と緑のワンダーランド構想
- 10 とやま快適お出かけネットワーク構想

長期構想

この総合計画では、「第2編 基本計画」の目標年次を平成27年度に設定していますが、さらに長期的な展望に立って取り組むべき課題もあります。着手から完成までに長時間を要するもの、具体化するまでにかなりの条件整備が必要なもの、継続的に取り組むことにより効果が期待できるものなどです。

そのため、この「第3編 長期構想」では、目標年次の平成27年度を超え、長期的な視点から継続的に取り組んでいく重点課題や、具体化に向けて条件整備等が必要となるが夢のある構想などを、21世紀の富山県のさらなる飛躍をめざす“長期構想”として次の10のテーマにまとめました。

この構想に含まれる「プロジェクト」については、

- ①既に着手しているが、人材の育成や最先端技術の開発、事業実績の蓄積など、効果が現れるまで長期にわたって継続的に取り組むべきもの
- ②調査等が行われているが、環境への影響や費用対効果の検証など、具体化に向けて様々な課題の整理が必要なもの
- ③将来の富山県の飛躍につながる夢のある構想で、具体化については、長期的な技術革新の動向等を勘案しながら判断していくもの

など、熟度に差があり、「第2編 基本計画」に示されているものとそうでないものがあります。

この構想を推進するにあたっては、技術的実現可能性、費用対効果、また、地域づくりの観点から適切かどうか、さらには、国、地方とも極めて厳しい財政事情の下で、長期構想についてもそれ相応の財政的な裏づけがあることも必要であり、そうした観点も考慮して、必要な施策を選択し、常に内容の見直しを行いながら、取り組んでいくことになります。

長期構想一覧

テーマ	概要
1 アジアとともに発展するものづくり拠点構想	日本海側屈指の工業集積と多様な地場産業、伝統産業の基盤を活かし、アジアとともに発展するという観点から、本県独自のものづくり産業の振興を図ります。
2 越中とやま・食の王国構想	富山の食材が国内だけでなく世界に通用する競争力の高い安全で安心な特産品となるよう、戦略的な商品開発、ブランド化の推進、販売力の強化を図ります。
3 環日本海ゲートウェイ構想	北陸新幹線や東海北陸自動車道、空港・港湾の整備により、北陸、中京圏等と世界をつなぐ交流の拠点を目指します。
4 日本の未来を拓く人づくり構想	元気で創造性豊かな子どもの育成、温かい心の醸成、自立心の育成を図り、富山県はもとより、日本の明日を拓く人づくりを推進します。
5 世界に発信する文化・学術交流拠点構想	富山が、世界の各地域と結びつき、質の高い文化の創造と発信、交流を行うとともに、環日本海地域の知的ネットワークを形成し、学術交流の拠点となることを目指します。
6 立山・黒部「美しきアルプスの国」構想	立山・黒部など北アルプス一帯の雄大な自然の保護と利活用を図るとともに、立山の歴史・文化の発掘を進め、多くの人が訪れる世界的な山岳観光地を目指します。
7 「神秘の宝庫 富山湾」構想	富山湾の特徴を活かした海洋観光などの推進を図るとともに、深層水等の海洋資源の活用や研究・開発などを進め、「不思議の海 富山湾」の活用に取り組めます。
8 「健康長寿100歳」構想	薬の伝統と生命科学（バイオ）の研究機能の集積を活かし、医薬・バイオの開発・生産拠点づくりに取り組むとともに、県民誰もがいつまでも健康で生き生きと暮らせる健康・長寿県を目指します。
9 水と緑のワンダーランド構想	世界のモデルとなる健全な水循環系の保全や機能の高い森づくりを進めながら、とやま型のエコライフスタイルを定着させ、循環型・脱温暖化社会の構築を進めます。
10 とやま快適お出かけネットワーク構想	本県の鉄軌道ネットワークなどを活かし、人と環境にやさしい、全国に誇れる利便性の高い公共交通網の構築を目指します。

長期構想とプロジェクト

1

アジアとともに発展するものづくり拠点構想

趣旨 本県は、電子部品、機械、金属、化学工業を中心に日本海側屈指の工業集積と高度な技術を有しており、幅広い技術を融合したロボット技術の蓄積もあります。

今後は、こうした蓄積を活かし、富山のものづくり産業が東アジアやインド等の経済成長とともに発展するという観点から、ものづくり産業の積極的な振興を図るとともに、伝統産業の卓越した匠(たくみ)の技と知恵の結集を図り、労働力の減少や高齢者介護などの社会的な課題にも対応していきます。

1 「ロボット技術の拠点」プロジェクト

主な取組み

●ロボット技術の拠点形成

・先端ロボットの研究開発と生産

(例)生活支援型…除雪ロボット、家電製品のロボット化(洗濯・清掃)、癒し系ロボット(ペット)

自立支援型…リハビリサポートロボット、介護支援ロボット、義肢装具のサイボーグ化(腕や足など)や人工眼、人工内耳

労働支援型…夜間警備ロボット、清掃し、ごみを分別するロボット、災害救助ロボット、農林水産業の労働支援ロボット

産業支援型…長期無人稼働ロボット、マルチ機能ロボットを組合わせた柔軟性のある無人工場

・国際ロボット福祉機器展の開催

●人工知能ロボットの開発

・人の脳の働き(直感力、大局観)を再現する次世代コンピューターとロボット技術の結合による、人工知能を備えた産業用・家庭用ロボットの開発

●超小型ロボットの開発(バイオとマイクロマシン技術との融合)

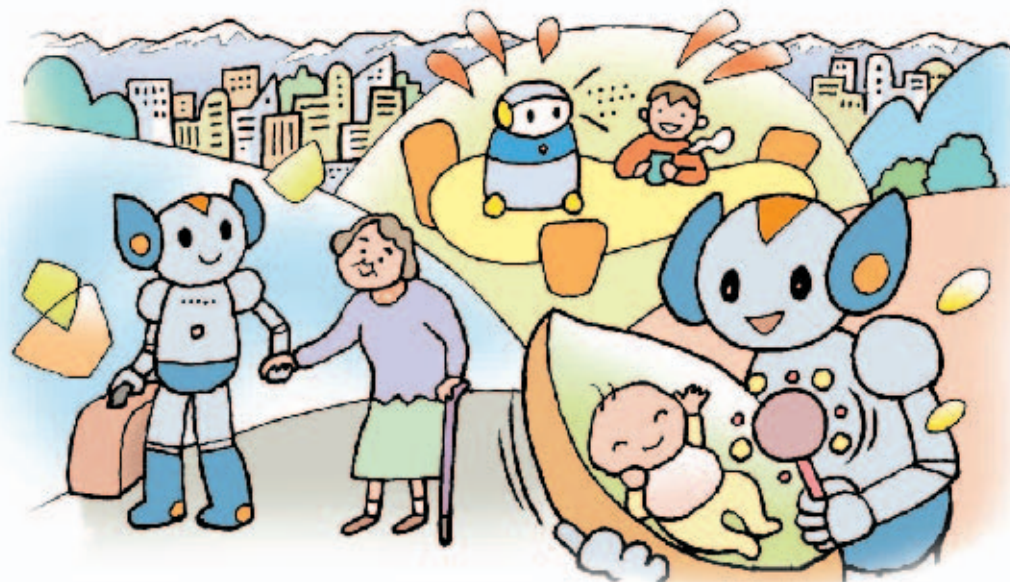
・超小型健康管理ロボットの開発・生産

(センサー機能、レーザー治療機能、薬液注入機能などを有し、体内を循環し、動脈硬化などの病気の早期発見・治療・手術を行うロボット)

「ロボット技術の拠点」のイメージ

ロボット研究・生産の拠点である富山県は、ロボット活用、普及の先進モデル県として、新規開発ロボットの実用化に向けた様々な取組みが行われている。

各家庭に1台、掃除、洗濯などを行う「お手伝いロボット」や介護ロボットが全国に先駆けて普及しており、家事や介護の負担から解放されているとともに、癒し系ロボットが心の安らぎを与えている。



2 「世界の試作品センター」プロジェクト

主な取組み

- 「世界の試作品センター」の形成
 - ・ 富山のものづくり技術である、鋳造、熱処理、金型、メッキ、プレス加工などの専門技術に特化し、集積した「世界試作品センター」の形成
- 「富山県試作品コーディネーター」の世界各地への配置
 - ・ 世界各地の独自技術とマッチングし、高品質で機能性とデザイン性に優れた新商品開発のための試作を受注するコーディネーターの配置

「世界の試作品センター」のイメージ

熟練技能者を集めた中小企業が集積し、世界でも一目置かれるほどの技術力によって、アジアをはじめ国内外の企業からの試作品の依頼に素早く対応できるシステムが整備されている。

3 「先端材料の研究開発拠点」プロジェクト

主な取組み

- 「先端材料研究センター」の形成
 - ・ アルミ加工技術の高度化や新しい金属材料、機能性繊維、機能性高分子材料などの最先端研究開発を行うための「先端材料研究センター」の形成
- 環境に配慮した先端材料の生産・輸出
 - (例) 自動車の軽量化……アルミニウム合金やプラスチックの高度成形加工
循環型部材の提供…マグネシウム合金の高性能化

「先端材料の研究開発拠点」のイメージ

アジアをはじめ国内外で生産される多くの自動車が、省エネ促進のためアルミニウムボディやプラスチック窓に替わっており、こうした新しい自動車用部材の本県における生産量は国内で高いシェアを占めている。

4 「ものづくり人材育成」プロジェクト

主な取組み

- 世界の頭脳を受入れと交流
 - ・ アジアからの優秀な研究者・技術者の招聘や本県への留学
- 企業の研究開発部門の誘致、ものづくり人材の育成
 - ・ 民間企業の研究開発部門の誘致と県内大学等との交流
 - ・ 小・中学校におけるものづくり体験学習の推進など、ものづくりの心の醸成

5 「伝統的工芸品の修復拠点」プロジェクト

主な取組み

- 伝統的工芸品修復拠点の形成
 - ・ 多様な修復依頼に対応できる伝統技能者集団のネットワーク化
- 伝統技能者の育成
 - ・ 高度熟練伝統技能の若手技能者への継承

「伝統的工芸品の修復拠点」のイメージ

高岡の金工・漆工や井波の彫刻などの伝統技術を活かし、梵鐘や獅子頭、曳山など祭事道具等の修復依頼を全国から受けることによって、伝統技術の継承と伝統工芸産業の振興が図られている。

趣旨

アジア諸国の経済発展と海外の日本食ブームを契機に、高品質農水産物市場が拡大しており、本県の全国に誇りうる高級食材が国内だけでなく世界に通用する競争力の高い安全で安心な特産品となるよう、戦略的な商品開発、ブランド化の推進、販売力の強化を図ります。

また、2030年には世界人口が80億人を超えると予想され、さらに、地球温暖化による植生変化や水不足が顕在化することにより、世界の食料需給はひっ迫する可能性も指摘されており、本県の食の生産技術が日本の食料自給率の向上だけでなく、世界の食料問題の解決にも貢献します。

1 「高級食材の生産基地」プロジェクト

主な取り組み

●ブランド品種の開発

- ・安全・安心ブランド品種の開発(無農薬栽培が可能となるイネなど)
- ・需要喚起型の農林水産物・加工食品の供給(買物袋に入る大きさのネギ、単身世帯向けミニ農産物(食べきり白菜など)の開発)
- ・医療分野等と連携した新品種や加工食品の開発・普及(機能性成分に着目した米、医療用の低たんぱく米など)
- ・環境配慮型農作物の供給(皮ごと食べられる果物、日持ちの良い野菜など)

●流通技術の開発

- ・高級魚などの長距離輸送・通年販売化のための流通技術の開発(超低温凍結技術など)

●世界に向けての積極的な販路開拓、情報発信

- ・首都圏や海外などへの戦略的市場調査・PR活動の展開
- ・国内外のバイヤー招聘、国際見本市参加などによる輸出も含めた販路開拓
- ・「越中料理」の提供など観光とタイアップした「食材」や「食文化」の発信

「高級食材の生産基地」のイメージ

富山産の農産物(米、白ねぎ、日本なしなど)や水産物(ブリ、白エビ、ベニズワイカニなど)、水産加工品(かまぼこなど)、日本酒などが首都圏等の国内はもとより、アジアを中心とする海外にも輸出され、また、県産の食材には電子タグ等が貼付され、生産者、栄養成分など食材の安全情報が簡単にわかるようになっている。

このため、「高品質で安全な農産物なら富山県」という優れたブランドイメージが国内外の消費者に定着している。

また、特定のビタミンを豊富に含む米などの機能性品種や低たんぱく米など医療用品種が数多く開発・導入され、人々の健康の維持・増進に役立っている。

2 「食料生産技術の開発基地」プロジェクト

主な取組み

●食料の安定生産技術の確立

- ・地球温暖化に対応するポスト“コシヒカリ”の育成
- ・優良品種の組合せやIT技術を活用した生育診断による、地球温暖化などの気象変動に対応した水稻の高品質・安定生産技術の確立・普及
- ・担い手の高齢化や超低コスト化等に対応した作業支援ロボットの開発・普及（農作業支援ロボット、漁業支援ロボットなど）

●世界の食料供給を支える優良遺伝資源の供給・多収穫生産技術の開発

- ・種籾などの優良遺伝資源の保存・生産・供給を通じた地球規模での食料問題解決への貢献
- ・バイオテクノロジーによる高品質・安定多収をもたらす米や野菜の研究開発
- ・バイオエタノールの原料となる多収穫穀物の生産技術の開発・普及

「食料生産技術の開発基地」のイメージ

良食味のコシヒカリに匹敵する早生・晩生品種が育成・普及するとともに、IT技術を活用した生育診断に基づく適時・的確な栽培管理により、猛暑や集中豪雨などに対するリスク回避が図られ、こうした気象変動の中でも1等米が安定生産できる米の栽培技術を開発し、世界の米の安定生産に貢献している。

また、全国一を誇る種籾などの有用遺伝資源は、国内はもとより食料不足に苦しむ諸外国にも供給されるだけでなく、遺伝子組み換えなどの最先端バイオ技術を活かして砂漠などの劣悪な環境下でも育つ作物を開発し、世界各地の食料問題解決に貢献している。

さらに、農林水産業の担い手の高齢化・減少に対応して、様々な作業にロボットが取り入れられ、耕作放棄田が減少し、国土の保全にも役立っている。



趣旨

北陸新幹線の開業や東海北陸自動車道の全線開通、空港・港湾の整備により、本県の広域交通機能は、飛躍的に向上し、国内外との交流の活性化が見込まれています。

今後は、このような基盤を活かし、より一層利用しやすい交通システムや円滑で迅速な物流システムを構築し、外国人も活躍できるまちづくりを進めることによって、北陸、中京圏等とアジア、世界をつなぐ交流拠点、環日本海地域へのゲートウェイを目指します。

1 「東アジアー泊ビジネス圏」プロジェクト

主な取組み

●アジアと結ぶ空路網の充実

- ・中小型ジェット機やコンピューター機を活用したアジアの拠点都市との一日一便の実現
- ・東アジアとの新規海外航空路(中国、台湾、東南アジア、インド等)の開設

●高速鉄道網の整備・充実

- ・北陸新幹線の大阪までの整備と高速化

「東アジアー泊ビジネス圏」のイメージ

海外定期航空路の充実により、中国、韓国、ロシアへ泊でのビジネス旅行が可能となり、北陸や飛騨、長野などの多くのビジネスマンが富山空港を利用している。

また、東アジアのビジネスマンにも、富山空港のアクセスの良さや充実した空路網が認知され、富山空港経由で東アジアと国内各地との経済交流が活発に行われている。

2 「富山・アジア・欧州物流ネットワーク」プロジェクト

主な取組み

●高速道路網の整備

- ・東海北陸自動車道の全線4車線化の促進、能越自動車道の全線開通

●東アジア地域の鉄道網、シベリア鉄道との連結、活用

- ・東アジア地域の鉄道網と連結したコンテナ輸送ターミナルの形成
- ・シベリア鉄道を利用した鉄道・船舶の複合一貫輸送による欧州との接続

●アジアと結ぶ港湾機能の充実

- ・超高速輸送船の就航(「21世紀の北前船」)、コンテナ定期便の充実
- ・先端的物流施設(ITを活用した自動収納・搬出倉庫など)の集積
- ・荷役の24時間自動化

「富山・アジア・欧州物流ネットワーク」のイメージ

シベリア鉄道の高速化や国連のトランスアジアレールウェイ構想(※1)の実現により、伏木富山港は、東海北陸自動車道、地域高規格道路等との接続を活かし、中京圏等から韓国や極東ロシアを經由しアジア内陸部、ヨーロッパを結ぶ環日本海側の物流の拠点として飛躍的な発展を遂げている。

3 「国際企業ビジネスタウン」プロジェクト

主な取組み

●世界に開かれたビジネス街の形成

- ・国際企業が集積するビジネス街区の形成
- ・外国人留学生・研究者の起業・就業の促進
- ・外国の地方政府事務所の誘致と活動支援

●外国人に暮らしやすい環境の整備

- ・人の脳の働きを再現する人工知能コンピューターを活用した、高度自動翻訳機の開発
- ・多言語による行政情報、生活情報の提供(医療・福祉、災害など)
- ・日本語・日本文化の学習支援
- ・外国人児童のための教育体制の支援
- ・居住の支援

「国際企業ビジネスタウン」のイメージ

富山県は、交通・物流・通信基盤整備だけでなく、外国人にとっても暮らしやすい、外国人ビジネスマンも活動しやすい環境づくりに熱心に取り組んでいる。

特に、相互理解の大きなハードルとなっている“言葉のカベ”の打破に向けて、県内学術機関を中心に研究が進められてきた“人工知能コンピューター”を活用した「携帯型自動翻訳機」の開発、実用化が進んでいる。

こうした技術をいち早く活用し、あらゆる国の人とのコミュニケーションを可能にする国際ビジネス拠点づくりが進み、国の内外で活躍する企業が富山に拠点を置いて活動している。

また、外国人向けの生活情報誌や新聞がコンビニエンスストアなどで販売されているだけでなく、異国情緒あふれる飲食店や雑貨店が開店し、多くの外国人や日本人が携帯型自動翻訳機を使って、店員とおしゃべりやショッピングを楽しんでいる。



(※1) トランスアジアレールウェイ構想：国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)が提唱しているアジア(26カ国)とヨーロッパ、アフリカを鉄道で結ぶプロジェクト。

趣旨 教育は国家百年の大計であり、人づくりは本県発展の基盤です。本県教育は、教育熱心な県民性、生きる力を育む豊かで美しい自然、全国に人材を輩出してきた優れた教育実践など、本県ならではの歴史と風土に支えられてきました。

この優れた土壌を活かし、さまざまな分野で活躍し、富山県はもとより日本の未来を拓く人づくりに、県民総ぐるみで取り組む必要があります。

このため、元気で創造性豊かな子どもの育成に取り組むとともに、生涯を通じて学べる環境を整備し、郷土を愛し温かい心を持った県民が、自立し、互いに支え合う社会の構築を目指します。

1 「明日に羽ばたく子どもの育成」プロジェクト

主な取り組み

●時代をリードする人材の育成

- ・「学力、体力の向上」と「心の教育」を一体とした全人教育の推進
- ・いじめ、不登校がなく、児童生徒が生き生きと学び、切磋琢磨できる環境づくり
- ・幼・保・小・中・高・大の一貫した教育体制の推進
- ・スポーツ、芸術など一人ひとりの才能を発見し、伸ばす教育の推進
- ・高い教育・研究水準を持ち、地域・企業等と連携する高等教育の充実

●子育て環境の整備（県民寺子屋ネットワーク）

- ・地域子ども教室の全県配置とネットワーク化
- ・子ども元気はつらつサポートシステム
早寝早起きなど望ましい生活習慣の指導等
- ・地域子ども教室等での若者の子育てインターンシップの推進
- ・親の子育て教育の推進、子育ての知恵・経験の世代間の伝承

●豊かな体験活動の実施

- ・キャリア教育の推進（自らの将来を考えるインターンシップ等）
- ・ふるさとの自然や文化の活用・継承、新幹線等の広域高速交通基盤の利用などによる様々な体験活動の実施
- ・異年齢・異世代交流、広域・国際交流の推進

「明日に羽ばたく子どもの育成」のイメージ

子どもが家庭、地域、学校等の連携の中で見守られ育てられ、知、徳、体のバランスの取れた成長をしている。

個々の感性と才能を十分伸ばしていくとともに、小中学生向け起業体験プログラムや地域の高齢者の生活をサポートするボランティア活動などの体験活動を通じて、自ら考え行動し、困難に負けずに自分の将来を切り拓いていく次の世代が育っている。

また、富山県の発展のみならず、日本や世界の平和と発展に寄与する傑出した人材をこれまで以上に輩出している。

2 「とやま生涯マナビズム」プロジェクト

主な取組み

●全県学び舎構想

- ・一人ひとりの県民ニーズに応える、県・市町村・民間を含めた全県生涯学習ネットワークの構築
- ・高等教育機関の活用
 - ・社会人特別選抜の拡充、リカレント教育の普及
- ・インターネット、CATV等を活用した学習システムの活用
 - ・双方向型公開講座の実施、在宅学習支援

●自主的な社会活動の振興

- ・ライフサイクルや地域に応じたボランティア・NPO活動の促進
- ・世代間交流・シニア海外ボランティア活動への支援

●健康・スポーツ活動の振興

- ・ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーションの推進

3 「自立と支え合いの人づくり」プロジェクト

主な取組み

●「県民1人1ボランティア活動」の推進による温かい心の醸成

- ・お互いに支え合う温かい心や地域を愛する心の育み
- ・主体的なボランティア・NPO活動への参加と交流の拡大
- ・小・中・高校時代からのボランティア活動、ふれあい活動への取組み

●地域を活かした学習の充実と自立した心の育成

- ・積極進取の県人(安田善次郎、田中耕一氏など)から学ぶ「自立心」の醸成
- ・富山の山、川、海などを活用した自然まるごと体験学習や屋外の宿泊学習
- ・隣人とのふれあいを育む「あいさつ運動」の推進
- ・祭礼などの地域行事の参加を通じた多世代交流
- ・年齢、性別、障害の有無等を越えた多様な交流の推進



趣旨

本県は、国際的に高い評価を受けている利賀の舞台芸術など、質の高い文化の創造と発信が行われるとともに、国際的な文化交流が活発に行われています。

また、環日本海地域への地理的優位性を有していることもあって、環境、学術等をはじめとした様々な分野において、この地域との国際交流や国際貢献に多くの実績があります。

今後は、このようなこれまで培ってきた基盤を活かし、富山が、舞台芸術創造の拠点となるとともに、世界の各地域と結びつき、質の高い文化の創造と発信、交流を推進します。また、学術交流、環日本海地域の環境問題への国際貢献等だけでなく、国際的な知的ネットワークを形成し、学術交流の拠点となることを目指します。

1 「国際的な文化交流拠点」プロジェクト

主な取組み

●世界をリードする舞台芸術拠点の形成

- ・世界の演劇の聖地・利賀を核とした舞台芸術創造や国際的な舞台芸術人材の育成など舞台芸術拠点の形成
- ・日露文化フォーラムなどの定期的な開催など、富山が世界の舞台芸術をリードする取組みの推進

●ワールドギャラリーとやま構想 ～世界の美術創造拠点の形成～

- ・世界ポスタートリエンナーレをはじめ、デザイン、金工、木彫、水墨、ガラスなど本県の特徴ある美術文化の集積をベースとした、国際的な美術展や制作キャンプなどの定期的な開催、美術家・美術館による国際的な交流を通じた国際美術拠点の形成

●こども芸術ゲートウェイ構想 ～子どもの舞台芸術・美術・音楽等の拠点の形成～

- ・世界こども舞台芸術祭をはじめ、演劇、舞踊、吹奏楽、合唱、児童画、書等での子どもたちの国内外での優れた活躍をもとにした国際的な芸術祭の開催や交流の推進による子どもの国際芸術交流の拠点の形成

●とやま文化の世界的発信拠点の形成

- ・木彫・金工等国内外に誇れる美術家集団を中心とした国際文化発信基地の形成
- ・越中万葉をはじめ富山の自然・風土を題材とした文芸や書の国際交流の推進
- ・民謡民舞、茶道、華道、散居村、五箇山の合掌造り、祭礼など生活に根ざした富山の伝統文化観光の推進
- ・世界的バイオリニスト、シモン・ゴールドベルクが晩年を過ごした富山の恵まれた環境を活かした若手音楽家の育成

「国際的な文化交流拠点」のイメージ

バーチャルリアリティ(仮想現実)技術により、立体映像、個々の楽器の演奏、会場の雰囲気が再現できるようになり、家庭にいながら臨場感あふれる、海外のコンサート、演劇等を楽しんでいる。

また、国内外の芸術家の来県が増え、生の演奏を楽しんだり、小学校で生徒とふれあう機会が増えている。

舞台芸術特区TOGAで学んだ芸術文化人が世界を舞台に活躍するなど、特区を中心に国内外の舞台芸術家の創造・育成の拠点が形成されている。

また、子どもの頃から芸術文化に親しみ、国際的な芸術文化活動に参加することによって、世界に飛躍する芸術文化人が育っている。

主な取組み

●環日本海の「知」のネットワークの構築

- ・環日本海大学機構の設立(インターネットを利用した単位の相互認定、教員の相互派遣等を行う大学機構)
- ・県内大学と環日本海地域の大学との単位互換制度の導入

●北東アジア・グリーンスキームの推進

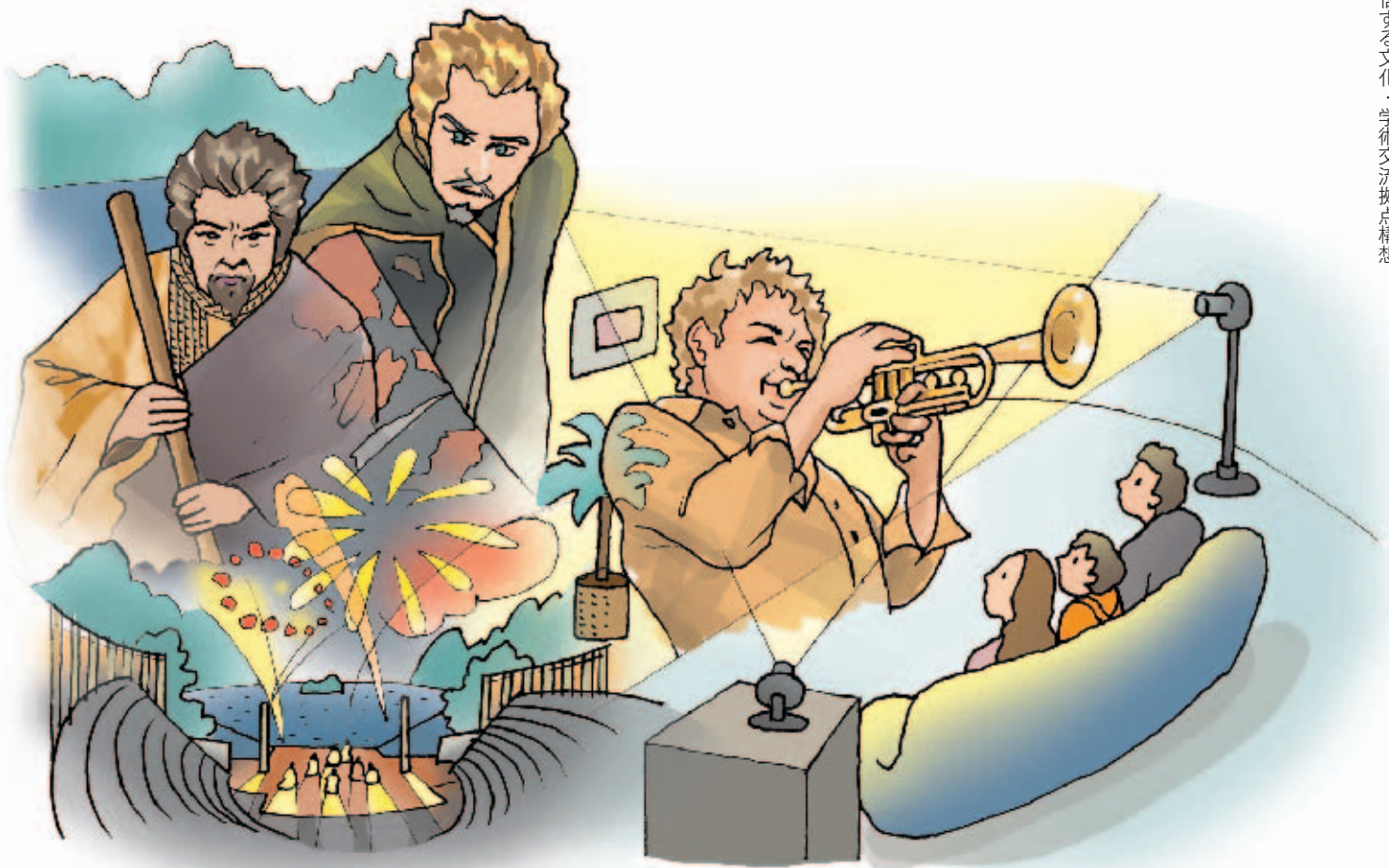
- ・北西太平洋行動計画(NOWPAP)本部事務局を中心とした、日本海の環境評価などを行う共同監視・研究拠点の構築支援
- ・「北東アジア地域自治体連合」(日本、中国、モンゴル、韓国、ロシア等の環日本海地域の自治体が加盟)の交流協力(経済、文化、環境等)のネットワークを活かした、富山県がリードする環境分野における協力活動の充実強化
- ・黄砂、酸性雨等の環境モニタリングネットワークの整備等、環日本海地域の環境保全、環境協力を推進するための基盤づくり(北東アジア・グリーンスキーム)

●日本海学の推進

- ・日本海学など環日本海地域の自然、環境、文化、交流等を学際的に調査研究する知的ネットワークの構築や日本海ミュージアム構想の推進

「環日本海の学术交流拠点」のイメージ

県内大学がNOWPAPの活動に積極的に参加し、具体的な共同研究プロジェクトの拠点となることにより、環日本海地域の大学間連携や国際的な視野を持った人材の育成が進み、県内大学で育った人材が各種の国際機関や環日本海地域の大学で活躍している。



趣旨 豊かで美しく、そして雄大な自然や観光資源を持つ立山・黒部は、県民だけでなく日本、世界の人々をも魅了するものであり、県民の誇りであるとともに大切に守っていくべきものです。

今後は、立山連峰の素晴らしさを改めて発見することにより、その保全と利活用を図るとともに、立山の歴史・文化の発掘を進めます。そして、広域高速交通網の活用により、東アジア地域など国外からも多くの人々が訪れる世界的な山岳観光地を目指します。

1 「国際的な山岳観光地域」プロジェクト

主な取組み

●多様な山岳観光の推進

- ・ライチョウや高山植物等の貴重な野生生物の保全とエコツーリズムの推進
- ・立山カルデラの利活用(防災教育、カルデラ観光)
- ・立山、黒部峡谷、宇奈月温泉を結ぶ周遊観光ルートの形成
- ・立山カルデラ神秘のプラネタリウム(寝そべて空を見上げる)ツアーの開催
- ・外国人観光客の誘致
(東南アジアや英語圏(オーストラリア等)など新たな市場開拓を目指したPR)

●観光資源の発掘

- ・旧立山温泉の復元
- ・国際的な山岳イベント・コンベンションの誘致・開催(山岳スキー競技(※1)世界選手権の開催等)

2 「立山黒部の文化資産の発信」プロジェクト

主な取組み

●立山文化の発掘・発信

- ・立山信仰に関する文化資産等の発掘
- ・立山信仰の復活体験の推進
(立山山麓の「宿坊」を基地に、山頂までの古道を巡る登山の体験、立山布橋灌頂会など)

●立山黒部の大自然に対する「人の営み文化」の発信

- ・黒部川電源開発や立山・黒部砂防事業など、わが国近代産業史に誇る文化資産の発掘
- ・黒部川の峡谷美や砂防事業を体験できる歩道の整備、黒部ルートの実等

「国際的な山岳観光地域・立山黒部の文化資産の発信」のイメージ

登山や自然探勝だけではなく、山麓に伝えられる立山信仰や布橋灌頂会などの歴史・文化の魅力、温泉療法などを組み合わせた複合的な観光ルートが開発され、健康や癒しを志向する新たな時代の観光ニーズに対応した世界的な山岳観光地として高い評価を受け、国内外からの誘客が進んでいる。

3 「北アルプス周回・横断ルート」プロジェクト

主な取組み

●北アルプスゴールデンルートの整備促進

- ・富山～高山～松本～糸魚川～富山の周回ルートの整備
- ・「ぶり街道」(※2)、「塩の道(千国街道)」(※3)等を活用した広域観光の推進

●北アルプス横断道路(トンネル)構想の推進

- ・富山県と長野県を直接結ぶルート



(※1) 山岳スキー競技：山スキーの道具を使って距離15～20km累積標高差1,200～2,000m程度のコースを登り・滑降りし、タイムを競う競技。現在、隔年で世界選手権が開催されている。

(※2) ぶり街道：江戸時代、富山湾で取れたぶりを飛騨街道(ほぼ現在の国道41号)をとおり高山を経て松本まで運んだ交易の道。

(※3) 塩の道(千国街道)：糸魚川から松本までの旧道で、石仏をはじめ歴史的な遺構が数多く残されている。

趣旨

水深千メートルの深海を有し、日本海最大の外洋性の湾である富山湾は、深層水などの海洋資源に恵まれているだけでなく広大な海洋レクリエーション空間としての活用など、無限の可能性を有しています。

また、3,000mの山々からの雪解け水によって生じる曇気楼や珍しい埋没林等がみられるなど、「神秘の宝庫、不思議の海」と言われています。

今後は、富山湾の特徴を活かした海洋観光などの推進を図るとともに、世界的な人口の増加などに伴うエネルギーや水産資源の不足が懸念されていることから、富山湾に眠る海洋資源の活用と産業化、栽培漁業等の技術開発を進めます。

1 「国際的な海洋観光地域」プロジェクト

主な取組み

●海洋観光クラスターの形成

- ・海王丸パークや新湊マリーナなど海洋性レクリエーション基地を拠点にした、海洋クラスターの形成

西海岸ゾーン：定置網を活用したブルー・ツーリズムの促進

蛇が島・岩崎ノ鼻灯台(高岡市)周遊クルージング

中央海岸ゾーン：海王丸パークから内川や富岩運河・環水公園などを結ぶ観光水上バスの周航
新湊マリーナを活かした、ヨットスクールやジュニア海洋教室の開催

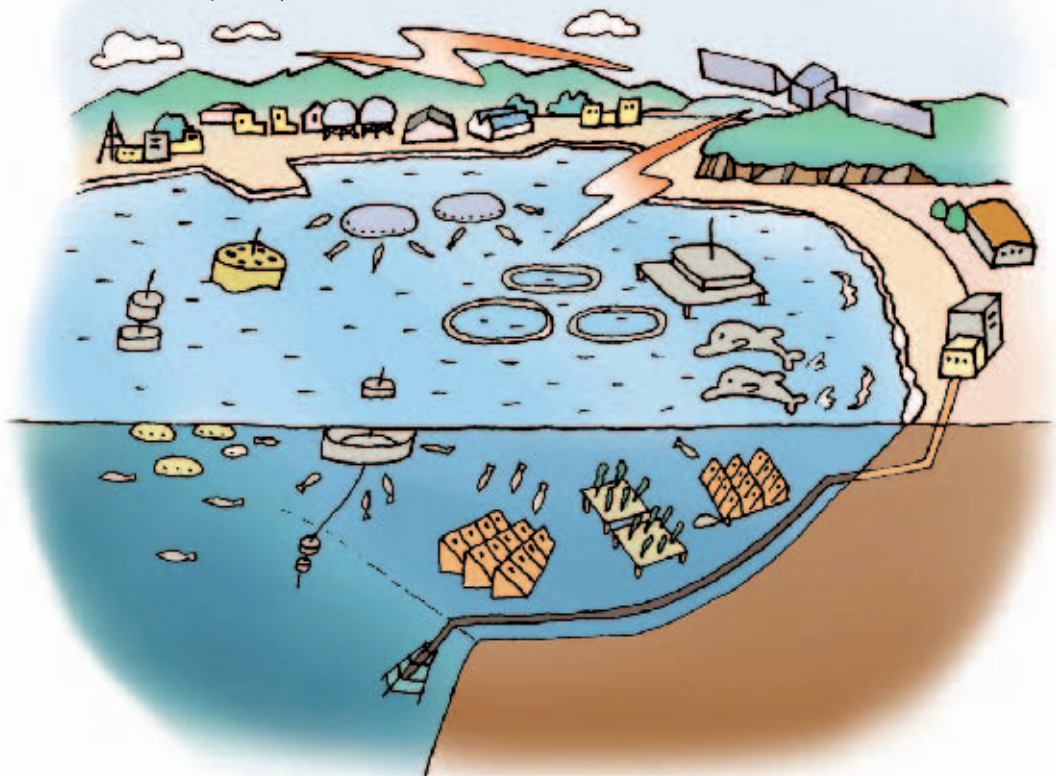
東海岸ゾーン：深層水を活用したタラソセラピー(海洋療法)による長期滞在型タラソセンターの形成

- ・美しい白砂青松の水辺空間を活かした海岸の保全
- ・天然のいけす「富山湾」クルーズの開設

〔 海洋牧場(※1)や観光用定置網内へ乗入れた観光船でのブリ・フクラギの釣りあげやシロエビの底引き漁、
ホタルイカ漁などを体験するクルージング 〕

●国際海洋イベントの開催

- ・環日本海諸国の連携による海を舞台にした国際イベントの開催(ヨットレースやビーチバレー、スポーツフィッシングなど)



2 「富山湾未利用エネルギー活用」プロジェクト

主な取組み

●深層水の利活用の推進

- ・ 深層水と表層水などとの温度差発電
- ・ 地域冷房用冷熱源としての深層水の利活用・事業化
- ・ 農林水産物保存用の冷熱源や工場等の冷却水としての深層水の利活用・事業化

●新エネルギーの研究・開発

- ・ 波力エネルギー発電
- ・ ウラン、リチウムなどの海水中に溶けている有用海洋資源の活用研究
- ・ CO₂を深層水中に溶解させ、大気中のCO₂を減少させる研究

「富山湾未利用エネルギー活用」のイメージ

深層水が、沿岸部の地域冷房をはじめ、工場の冷却水など多様な分野で利用されることにより、CO₂を排出せず、地球環境に優しいエネルギー源として高い省エネルギー効果をあげている。

また、天候等によって生産量に変動がある農林水産物を、豊作や豊漁の際には深層水を利用してわずかなエネルギーで冷凍できる施設で保存し、不作や不漁の際に供給するなど、食料の需給調整を低コストで行うことにより、価格の安定を図っている。

3 「水産資源活用」プロジェクト

主な取組み

●水産資源活用の管理、栽培技術の開発の推進

- ・ 富山湾を利用した高級魚の養殖技術の開発
- ・ 海洋牧場を利用した栽培漁業の推進
- ・ 深海性・冷水性の富山湾特有の魚介類の栽培漁業の事業化
- ・ 深層水を利用した鮮度保全への応用研究の推進
- ・ 突発的な強い潮の流れ等による被害防止のための定置網移動システムの開発

4 「富山湾“不思議の海”資源探索」プロジェクト

主な取組み

●未知の水産資源の探索

- ・ 深海に潜む魚や微生物の研究調査、オオグチボヤ(脊椎動物の祖先に近い生物)など世界的にも珍しい生物の生態の調査

●海底資源の探索

- ・ 将来の天然ガス資源として有望視されている海底メタンハイドレートの活用研究

(※1) 海洋牧場：網や柵で囲う代わりに人工の漁礁と自動音響給餌機(魚を音で呼び集め、餌を自動で与える機械)を用いることで、沖合いなど広い海のフィールドに安定した漁場を作り出すもの。

趣旨 本県には300年以上の「くすりの富山」の伝統があり、これを礎にして医薬・バイオの研究機能の集積が進んでいます。これらの産業・技術ポテンシャルを活かし、世界のライフサイエンス分野の研究開発拠点の形成及び医薬品生産の拠点化を目指します。

さらに、県民の健康づくりに積極的に取り組み、誰もがいつまでも健康で生き生きと暮らせる健康・長寿県を目指します。

1 「富山流アンチエイジング(※1)医療の推進」プロジェクト

いつまでも健康で元気に過ごしたいという超高齢化社会の切実なニーズに応える医療研究を推進します。「とやま医薬バイオクラスター」などを契機とした研究拠点形成、研究者ネットワークを活かして、様々な分野で取り組みます。

主な取り組み

●脳機能の研究・実用化拠点

- ・人間の脳に限りなく近い働きをする次世代コンピューターを活用し、脳機能障害(脳卒中の後遺症、アルツハイマー病など)を予防、診断、治療するシステムを開発
- ・神経細胞と半導体チップを繋ぎ合わせた神経細胞チップを活用して、脳波を信号化・伝達することにより、脊髄損傷の後遺症などにより麻痺した手足を動かせるようになる技術を開発

●免疫・抗体医療の推進

- ・人間の免疫機能を強化し、がんや感染症の治療に有効な新薬を開発
- ・「免疫細胞チップ」を活用した血液検査による疾病等の診断システム等を開発
- ・生活習慣病の予防のための体質診断法や、漢方や機能性食品等を活用した処方システムを開発

「富山流アンチエイジング医療の推進」のイメージ

イメージ～高齢者でも丈夫な身体、認知症も激減

がん、脳卒中、心臓病などの生活習慣病の予防法が普及し、高齢者でも50歳前後の健康な身体を維持している人が増えている。

また、認知症の診断・治療システムの確立、普及により、ほぼ健常者と変わらない生活ができる人が増え、超高齢化社会でありながら、家族、介護者の負担は現在よりも軽くなっている。

2 「健康の先進県」プロジェクト

主な取り組み

●健康ツーリズム(人間ドック・健康指導)の推進

- ・治療や養生のための滞在人口の増加(和漢薬治療、森林浴等の活用)

●「質の高い健康・医療サービス」の提供

- ・保健機関、医療機関、スポーツ施設等の健康情報共有化による、一貫した健康指導システムの構築
- ・ITを利用した遠隔医療の実現

●生きがいのある生活環境の構築

- ・生涯現役を可能にする、ボランティア活動の活性化、労働市場の構築
- ・心の健康が保てる環境整備(企業に対する啓発など)

●健康メニューの提供

- ・家庭や学校、外食産業、食品スーパー等が一体となった健康メニューの提供など「富山型食生活」の浸透

「健康の先進県」のイメージ

日常的に、保健機関、医療機関、スポーツ施設の連携した健康指導を受けるとともに、病院と家庭のパソコンが接続され、電子カルテを見ながら、専門医と医療相談をすることができる。

脳機能の解明、骨、皮膚、歯等の再生医療技術、リハビリサポートロボットの高度化等により、脳卒中患者の多くが回復し、健常者と変わらない生活を送っている。

3 「薬とバイオの都」プロジェクト

主な取組み

●ライフサイエンス分野の研究開発拠点の形成

- ・ライフサイエンス分野における世界レベルのバイオクラスターの形成
- ・国内外の大手製薬メーカーの研究所の誘致
- ・漢方医療の科学的な解明を通じ、先端医療との融合を図り、東アジアの漢方研究の拠点を形成

●世界に流通する医薬品の生産拠点

- ・高い医薬品製造技術を有する医薬品メーカーが集積したスペシャリティファーマゾーン(※2)の形成
- ・「世界の薬都」スイスバーゼルに立地する世界的企業等との医薬品の委受託生産の拡大や製剤化研究の推進

4 「くすりの富山」世界に発信プロジェクト

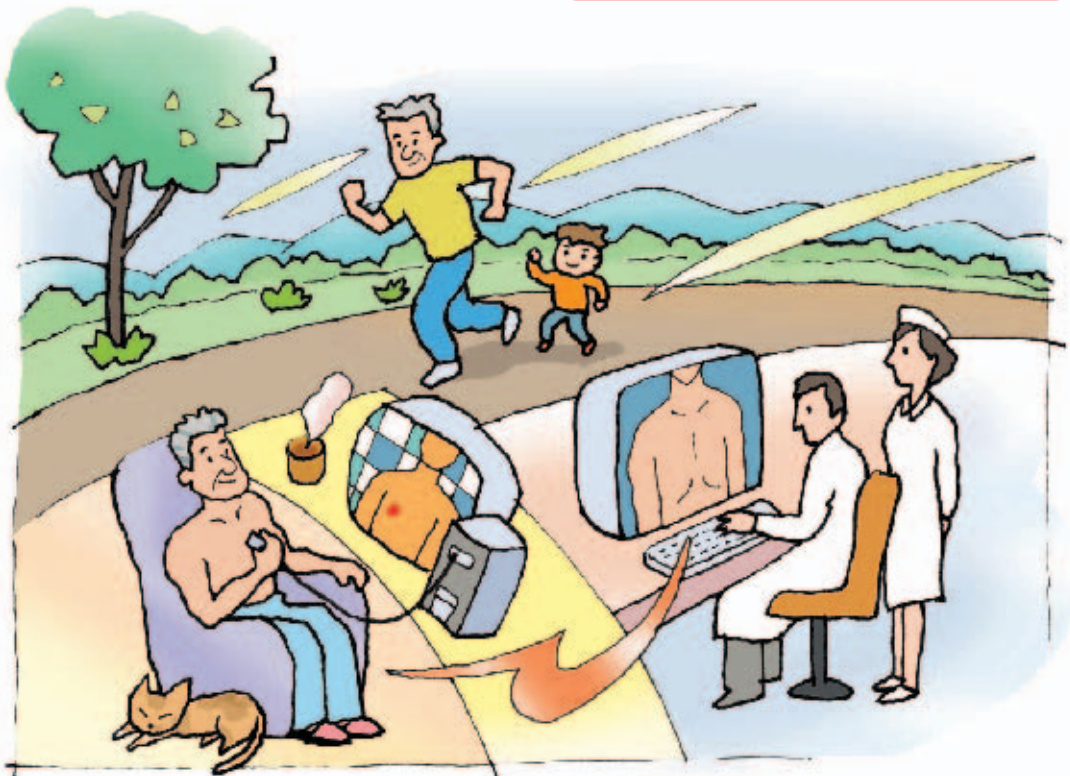
主な取組み

- ・薬の博物館、漢方・薬膳料理の提供施設などの「くすりの富山体験ゾーン」の形成
- ・和漢薬やその原料となる薬用植物をはじめ、すべての伝統医薬品に関する情報ネットワークの構築による情報の発信
- ・スイスバーゼルとの交流促進や国際協力団体と連携した発展途上国における配置薬システムの導入への支援

「くすりの富山」世界に発信のイメージ

おいしい薬膳料理を味わえるとともに体質に合った漢方薬を処方してもらえるなど「くすりの富山」を体験できる「くすり体験ゾーン」に、疾病予防、観光などを兼ねて、健康を気づかう中高年の人をはじめ、全国から多くの人々が訪れている。

また、富山で配置薬システムの研修を受けた人により、モンゴルなどの発展途上国にも「越中売薬」の配置薬システムが普及し、医療が十分受けられない人の健康維持を支えている。



(※1) アンチエイジング：健康と若さを保ちながら、年を重ねること。

(※2) スペシャリティファーマゾーン：得意な分野において特化あるいは一定の評価を受ける製薬メーカーの集積した工業団地

趣旨

富山の豊かで清らかな水の源となる健全な水循環系の保全を目指すとともに、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止や県土の保全などの多面的機能を発揮する健全で機能の高い森づくりを進めます。

また、日常生活の中で環境への配慮が行き届いたとやま型のエコライフスタイルを定着させ、循環型・脱温暖化社会の構築を進めます。

1 「水の王国とやま」プロジェクト

主な取り組み

●健全な水循環系の保全

- ・遊水地の整備、休耕田に水を張ること及び庄川扇状地などの地下に水を貯めるウォーターバンキングなど地下水の保全と涵養の推進
- ・河川間をつなぐ水路の整備による水系を超えた水資源の利活用の推進

●地域に根ざした水文化・産業の継承と発展

- ・親水型公園等の整備・充実と「ミズガキ」（水辺で元気に遊ぶ子どもたち）の復活運動の展開
- ・松川と富岩運河をつなぐ水辺の回廊づくり
（水辺の散歩道の整備と水辺を活かした飲食街等による賑わいの創造）
- ・「とやま八十八ヶ所お水巡り」のルートづくり
（飲む（名水）、見る（美しい渓谷や疎水など）、遊ぶ（観光遊覧船による川下り等））

●地球的規模の水問題への貢献・協力

- ・国際水文地質学会などの国際会議等を通じ、健全な水循環系のモデル「水の王国とやま」を国内外に発信

2 「100年の森づくり」プロジェクト

主な取り組み

●世紀を超えた美しい森づくりの推進

- ・水土保全機能、生物多様性の保全など公益的機能の持続的な発揮を目指す100年をサイクルとした森づくり
- ・風雪被害林や過密人工林の針広混交林への誘導と心安まる山村景観の形成
- ・無花粉スギ「はるよこい」の導入

●県民全体で支える多様な森づくりの推進

- ・地域住民や県民参加による里山林の整備と利用の促進
- ・農林水産業関係者や都市住民等が連携した流域全体とした森づくり活動の促進、企業の森づくり活動の促進

3 「クール(かっこいい)・エコ社会の構築」プロジェクト

主な取り組み

●エネルギー地産地消システムの確立

- ・全国有数の包蔵水力を誇る小水力発電の活用や太陽光、風力、地熱、雪氷熱等による再生可能エネルギーの地産地消
- ・排水・排ガス・廃熱も利用し環境負荷をゼロにする「スーパーゼロエミッションタウン」の推進

●とやまエコライフの定着

- ・住宅・建築物のITを活用したエネルギー管理、発光ダイオード(LED)照明、高効率給湯器などの省エネ機器の普及
- ・設計から廃棄まで環境に配慮(ライフサイクルアセスメント)した「エコ・デザイン製品」や、20年以上部品を供給できる「長寿命型製品」の普及
- ・1台の車を複数の人で共有する「カーシェアリング」など、新たなエコライフスタイルの普及

「クール(かっこいい)・エコ社会の構築」のイメージ

住宅は、地域材で建てるのが主流となっているだけでなく、一般家庭での電気消費の多くを太陽光発電システムでまかなう省エネタイプの住宅が普及している。そして、カーシェアリングの普及によって、かつての駐車スペースは花を育てるガーデニングコーナーとなっている。

また、クール・ビズやウォーム・ビズが徹底され、スーパーにレジ袋やトレイはなく、マイバッグ等で買物を楽しんでいる。

4 「グリーンバイオ(※1)」プロジェクト

主な取組み

●バイオ生産システムの利活用

- ・バイオマス(※2)を総合的に利活用する「バイオマスタウン」の推進
- ・メタンや水素を効率的に発生させる細菌の開発とそれを用いたバイオマスからの効率的なメタン、水素製造システムの確立
- ・蛋白質デザイン技術を用いたスーパー酵素の作出とそれによる医薬品等の低コストで効率的な生産
- ・植物への効率的な遺伝子導入技術の進展による、植物からの有用物質(例：プラスチック原料等)生産の実用化
- ・自動車燃料となるバイオエタノールの生産拠点の形成

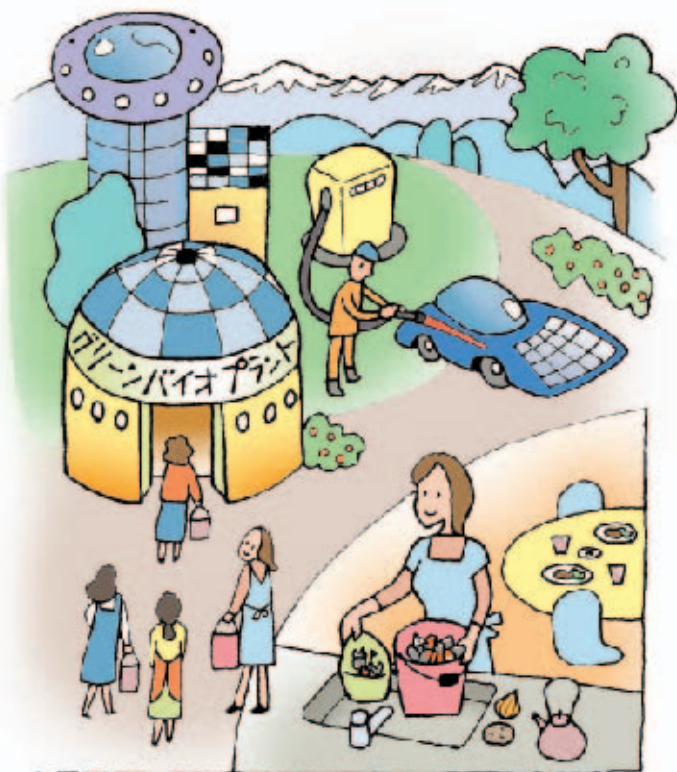
「グリーンバイオ」のイメージ

身近な製品の生産工程にグリーンバイオ技術が取り入れられ、産業分野でのエネルギー消費が抑えられている。

また、家庭やレストラン等から出る食品廃棄物などの廃棄物系バイオマスの発酵で得られるガスを利用して、バイオガス発電がなされている。

さらに、廃棄された食用油から製造されるバイオ燃料や資源作物などを原料とするバイオエタノールを使う自動車の普及によって、石油の消費量は減少している。

耕作地の豊富な富山県は一大バイオマス生産地として発展している。



(※1) **グリーンバイオ**：通常の化学工場では、高温・高圧下での化学反応を活用し、多くのエネルギーを消費して有用物質を生産するのに対し、グリーンバイオ技術を活用したバイオ工場では、常温・常圧下での酵素反応や微生物の発酵(例：日本酒の生産)を活用して有用物質を生産するため、設備が簡単で消費エネルギーも少ないという利点がある。

(※2) **バイオマス**：家畜排泄物や生ゴミ、木くずなどの動植物から生まれた再生可能な有機性資源

趣旨 超高齢社会や地球温暖化の進行に対応して、全ての人々にとって安全で快適な、しかも環境負荷の小さい移動手段の確保が求められています。

本県には、県内の主要地点を結ぶJR線や富山地方鉄道線、さらにはこれと連絡する路面電車により全国有数の鉄軌道ネットワークが形成されており、県民の重要な移動手段となっています。

このため、こうした鉄軌道ネットワークやこれを補完するバス路線ネットワークを活かして、人と環境に優しい全県的な公共交通体系の構築を目指します。

1 「全県鉄道ネットワーク」プロジェクト

主な取組み

●全県シームレス運転の実現

- ・ 県内の鉄道や路面電車に架線不要でバリアフリー化された新型車両を導入（新型車両の例：燃料電池（水素）LRT、バッテリー式LRTなど）
- ・ 電気規格の異なる路線や非電化路線での相互乗り入れを推進

●交通ICカードシステムの導入

- ・ 県内のバス、路面電車、鉄道などの公共交通機関や、多くの商業施設や公共施設などでも使用できる、利便性の高い交通ICカードシステムの導入

●ユニバーサルデザインによる駅整備、運行情報提供機能の充実

- ・ 駅の段差解消、視覚障害者誘導用ブロック、障害者用トイレの整備など駅施設のバリアフリー化
- ・ 交通機関の乗り継ぎ情報や遅延情報などを適切かつ速やかに利用者に提供するなど、運行情報提供機能の充実

2 「全県バスネットワーク」プロジェクト

主な取組み

●利便性の高い交通システムの整備

- ・ DMV（※1）（鉄道と道路の両方を走る車）を活用した鉄道と道路への相互乗り入れ（例：JR氷見線・城端線と高岡市内バス路線との連結）
- ・ 交通ICカードシステムの導入
- ・ バス等の定時制、速達制を確保するためのPTPS（※2）（公共車両優先システム）の導入
- ・ 地域の実情や多様な旅客ニーズに対応した運送サービスの提供（コミュニティバス、デマンドバスなど）

●ユニバーサルデザインの推進

- ・ 全てのバス車両のバリアフリー化
- ・ バスロケーションシステム（※3）の充実

3 「富山高岡環状線」プロジェクト

主な取組み

●DMVによる富山高岡環状線の一貫運行

・高岡～(万葉線区間)～海王丸パーク～(新湊大橋経由)～岩瀬～(LRT区間)～富山～(並行在来線区間)～高岡

「とやま快適お出かけネットワーク」 のイメージ

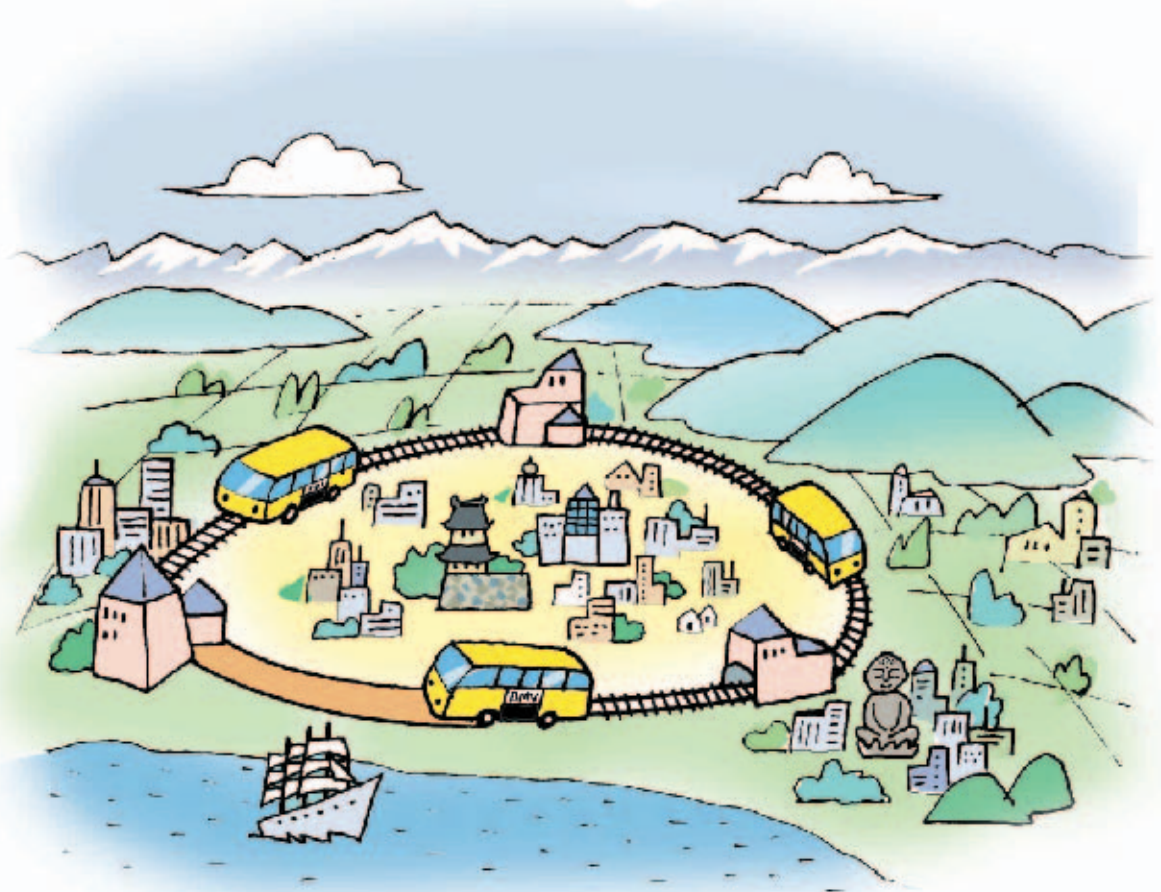
県内の全ての鉄道、路面電車、バスが、バリアフリー化されるとともに、共通のICカードで利用できる公共交通システムに統一され、鉄道、路面電車については異なる路線間の相互乗り入れ、さらにバスと鉄道でも相互乗り入れが行われている。

駅周辺には住宅地や商業施設、福祉施設などが配置され、駅から離れた地域へは路線バスによるアクセスが確保されるなど、誰もが県内の主要地域に安全で快適に移動できる利便性の高い公共交通環境が確保されている。

共通のICカードにより、バス・電車の切符購入時や商店での買物に小銭を使うことがなくなり、硬貨を持ち歩かなくてよい利便性が高齢者や若者の好感を得ている。

また、ショッピングに共通のICカードを利用すれば、帰りの交通費は無料になるといった商店街のサービスが人気となり、中心市街地は活性化している。

さらに、共通のICカードを通学の定期券として利用する児童・生徒の位置確認システムが稼働し、家庭のパソコンや携帯電話から、子どもが駅の改札を通った日時や買物をした店舗情報を確認することができる。



(※1) DMV : (Dual Mode Vehicle)

(※2) PTPS : (Public Transportation Priority Systems) 交通管制システムとバスロケーションシステムとを有機的に結合した公共車両優先システム

(※3) バスロケーションシステム : バスの位置情報を利用者に提供するシステム



芸術文化指導者招へい

次代を担う子どもたちの文化・創造活動を支援するため、要望に応じて芸術文化に造形の深い専門家を派遣するもの。一流の感性が子どもたちを磨く。